

環境調節によりイチゴで省エネ栽培ができます

促成イチゴの高設栽培ではハウス内加温および夜間の根域加温により生育を旺盛にして収量を確保するシステム開発を行ってきました。しかし、化石燃料の高騰による農業経営の圧迫からより効率的な管理方法の開発が求められるようになりました。

そこで、当センターでは収量・品質を落とさず省エネ栽培管理方法を開発しました。（平成18～20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業）

省エネ

・夜間のハウス内と根部の暖房温度を下げる

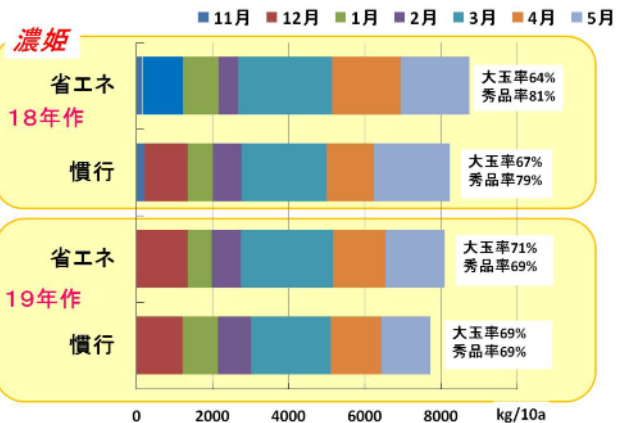
+

生育を促す技術

・日中のハウス換気の温度をやや上げる
・電照時間を少し長くする

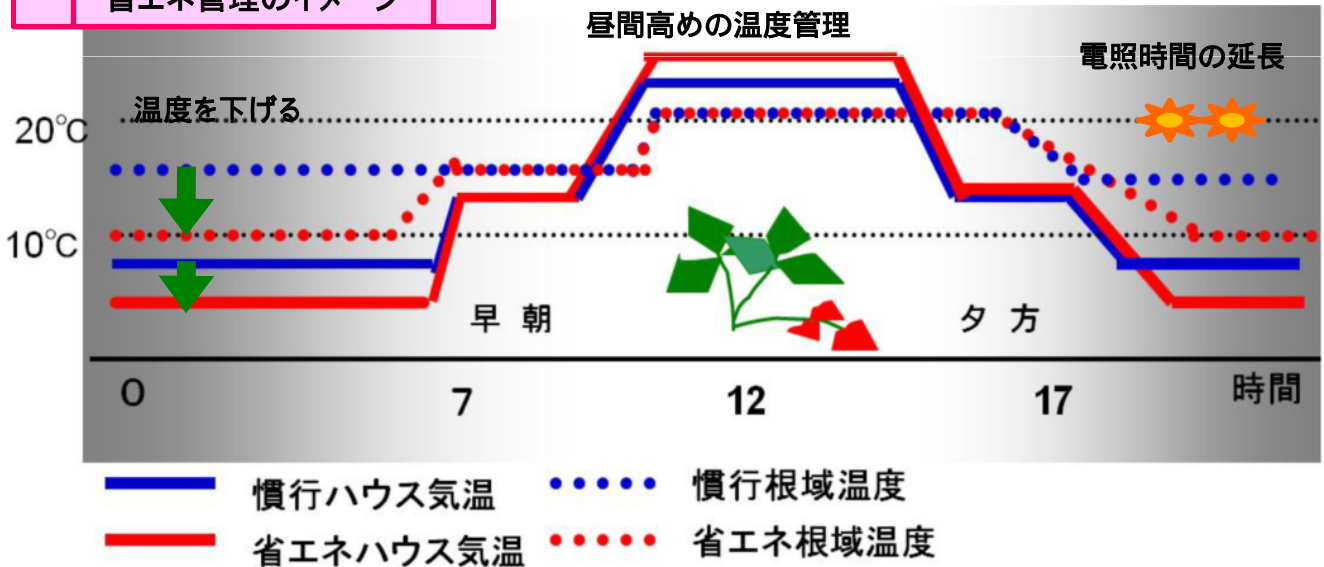


品質、収量落とさず45%の省エネ



省エネ管理と慣行管理の収量比較

省エネ管理のイメージ



(研究成果)

- ・夜間のハウス内温度を慣行の8℃から5℃に下げます。
- ・根域温度を慣行の15℃一定から夜間10℃に下げ、早朝に15℃に上げる変温管理を実施します。
- ・生育を確保するため、昼間のハウス内温度を慣行の25℃から28℃上げます。そして、電照時間を慣行より1～2時間程度延長します。
- ・この省エネ管理により、収量・品質を落とさず化石燃料使用量を45%削減することができます。